



この1年間、本校の教育活動にご協力とご理解をいただき、ありがとうございました。今年度の学校評価がまとまりましたので、お知らせいたします。次年度に向けてより充実した教育活動への取り組みにいかしていきたいと考えております。

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ○思いやりのある子ども (明るく) ○自主的な子ども (かしこく) ○健康な子ども (元気よく) 	<p>(支え合う学校づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども、教職員、保護者・地域が互いに信頼し合い、支え合う学校をめざす ・子どもの可能性を信じ、主体的な活動を採り入れる(実行委員制) ・保護者・地域との交流を図り、連携を深める <p>(学び合う学校づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに学ぶ喜びを実感させる ・教職員自ら、共に学び合い高め合う ・学校評価を充実させるとともに、情報の発信を積極的に行う <p>(安全・安心な学校づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上をめざした健康づくりを推進する ・防災・防犯対策の確立を図る 	<p style="text-align: center;">自分 友だち みやざき 大好き</p> <p>特に自分が好きになること、自己肯定感・自己有用感を高めることが大切。自分を好きになり、自信を持つことから他者を受け入れ、大切にすることができると考える。</p>

評価項目	今年度の重点目標	具体的な手立て	今年度の成果と課題、改善点 体的な改善策
1 児童理解・児童指導の充実 (人権・道徳教育)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の良好な人間関係づくりを推進していく。 ・児童が自己肯定感・自己有用感を持ち、落ち着いて学習したり、生活したりできるような環境づくりを工夫していく ・全職員が一人一人の児童を理解し、見取る力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳や各教科を通して心の教育の充実を図る。 ・効果測定や学校生活アンケートを活用し、児童理解・児童指導に努める。 ・特別支援の研修会や事例研修会を行い、職員のスキルアップを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を超えて全職員で児童対応したことで子どもたちにも友だちを理解する気持ちが育った。 ・児童理解の時間の確保のため、長期休業中の会議で児童理解の日を設定する。職員会議の時は必ず児童理解を行う。 ・児童の報告をするときは実態だけでなく、手立て、支援の仕方なども報告し、対応策についても話し合うようにする。 ・個別指導計画は年度初めなどの学年会やプロジェクトなどで児童理解のために活用する。
2 自主的な活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で、あいさつに対する意識を高める活動に取り組む。 ・教師の適切な指導のもと、子ども自ら活動に臨んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとにあいさつを習慣的に行える活動「あいさつロード」を実践していく。 ・児童朝会を通して、自主的に活動できるような場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの実践が見られ、定着につながっている。高学年がよい手本となっている。 ・地域の方へ自主的にあいさつができるようさらに実践を続けていく。 ・低学年が委員会やクラブの存在を知るきっかけになっている。 ・児童の自主的な取り組みにつながったので、来年度児童朝会で発表する学年等を広げていく。
3 家庭・地域社会のもつ教育力活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育推進委員や外部評価委員からの助言を受け、全員で共通理解し、活動にいかしていく。 ・地域との交流、保護者の協力を計画的に取り入れ、地域がもつ教育力を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校推進会議を年3回行い、児童の説明を聞いたり、授業参観したりしていただく。 ・協力していただくときは、学習のねらいを明確に伝え、学習が効果的に進むようにする。協力者の名前や活動について紹介し、より円滑な交流を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が活躍する姿を参観していただくことで児童の成長を感じていただけた。教員と児童の関係がよいというご意見をいただき、児童や職員の励みになった。 ・協力者への説明や児童が関わり方を学ぶことで学習のねらいに向かって円滑に活動できた。 ・新指導要領の実施に伴い、学習時間の変更やねらいの見直しを行っていく必要がある。 ・宮崎会の方々、ふれあい館にある昔の道具について説明していただいた。3年生の社会科で活用することができ、学習が深まった。
4 教育計画の取り組みと成果の情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習の様子を家庭や地域に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや学年だより等を利用し、学習の様子を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時更新可能な形式を導入し、最新の情報を提供できるようになった。

5	学び合いを通して、問題解決できる子をめざした学習活動の創造・研修	<ul style="list-style-type: none"> 学年での授業研究を通して、一人一人の子どもの実態をとらえ、それぞれ自信と自主性を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中でふり返りを大切にし、子ども自身ができるようになったことを自覚できるようにする。 学年で教科を絞り、年間を通して子どもの変容を見取り、学習活動に反映させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ふり返りの視点については、各学年に応じて取り入れていく必要があるが、振り返りを書く習慣はどの学年も身につけてきている。 児童が自分自身の変容に気付けるようなふり返りができるように、引き続き指導を行っていく。 学年で教科を絞ることによって、年間を通して見通しを持つことができ、学習活動の充実につながった。
6	教科・領域の指導計画の見直し・評価と指導の一体化	<ul style="list-style-type: none"> 新指導要領実施に向け、各学年の教科・領域の年間計画を作成する。 児童の学習を適切に評価することで、自らの指導を振り返り、次の指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の授業や研修に参加して情報を収集する。 新指導要領の内容を確認し、指導計画を作成する。 ノートや作品など具体例を提示しながら学年内で指導と評価の一体化研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 新指導要領実施に向け、授業研究会や研修会に参加し、情報収集や内容理解に努め、指導計画の作成に役立てることができた。今後も研鑽を重ねていきたい。 学年内で児童のノートや作品、補助簿等を見合ったり、評価規準を確認したりしながら、児童のどんな姿を見取っているのか情報交換したり話し合ったりすることができた。児童の学習を適切に見取り、次の指導に生かすため、今後も続けていきたい。
7	安全・健康教育の推進と充実	<ul style="list-style-type: none"> 防災・防犯対策の確立を図る。 交通安全の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地震訓練を増やす。 登校指導を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校時は、校外委員さんはじめ保護者地域の方々のお声かけもあり、改善されてきた。一方、下校時でのマナー低下がみられるため、下校指導の必要性がある。
8	校舎内外の整備・教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な安全点検や日常的な校舎内外の巡視を通して安全な教育環境整備に努めていく。 特別教室等の整理、整頓を心がけ、利用しやすい環境にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検では、重点項目を決めて落ちないように点検を行う。 不具合があれば、すぐに報告し、処置する体制を整える。 教科主任が定期的に点検し、整理整頓を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 重点項目を決めることで、問題点を共有し安全点検することができた。 不具合は写真を撮り、すぐに報告することで、素早く対応することができた。 教科の引継ぎが不十分な点があった。今年度の課題については反省をデータに残し、来年度に改善できるようにする。

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けて
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが自分の言葉で語っている場面が多く見られた。話し上手、聞き上手の子どもたちが育っている。 音楽集会や6年の合唱祭での合唱や合奏が素晴らしい。 帽子を着用している児童が多く、交通安全に役立っている。今後も危険箇所の点検を行い、安全に気をつけてほしい。 6年生のあいさつを見て、低学年があいさつできるようになる姿が見られた。校外でのあいさつがより活性化することを期待している。 地域の方との学習は、とても大切なので、継続してほしい。これからも地域の人や行事などを知らせる機会があるとよい。 それぞれの子どもの境遇や特性に合った必要な支援が行き届くようにこれからも尽力してほしい。 	<p>昨年度の反省を生かし、各担当がより目標を意識して活動できるように、各項目の重点を絞った。そのため、各担当が日々活動を振り返り、改善しながら取り組むことができた。児童理解では、情報共有の仕方を示すことで、職員全員で子どもを理解していった。研究では、授業の振り返りを継続的に行うことで、自分の成長に気づき、学習をより理解したり、自分に自信を持ったりできる子が増えた。新しい試みとして、児童朝会を設定する、避難訓練の回数を増やすなどを行った。自主的な活動、自分で考えて行動することにつながり、自己肯定感を高めることができた。</p> <p>来年度に向けては、今年度作成した新カリキュラムを運用し、課題に対しては改善していく。また、あいさつや下校時のマナーの低下に対して、子どもたち自身が問題意識をもって解決できるように児童活動を考えていきたい。さらに、地域の方々との活動や行事などを周知し、今後も地域や保護者と協力して教育活動を行えるようにしていきたい。</p>